

中国語教育学会会報

第4号(通巻29号) 2003年2月8日発行

下記事務局へのご連絡は郵便で

中国語教育学会 〒156-8550
東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部中文研究室内
郵便振替口座 00110-1-191152

3月27日(木)に第1回全国大会を開催 中国語教育学会として初めての研究報告会

本会は会則第3条で毎年1回の研究報告大会と会員総会の開催を定めている。今年度は会報第3号で予告したように、来る3月27日(木)に事務局所在地の日本大学文理学部で開くことになった。研究報告を公募しての大会は、協議

会の時期を通じ初めてのことである。今回の会報に添えて報告の概要(レジュメ)と出欠調査用の返信ハガキ(3月8日までに投函してください)をお届けする。会員各位には奮ってご参加いただきたい。会員外の参加も歓迎したい。

中国語教育学会 第1回全国大会(研究報告会・会員総会)ご案内

日時：2003年3月27日(木)午前9時40分～午後5時

会場：日本大学文理学部百周年記念館2階 国際会議場

(所在地：東京都世田谷区桜上水3-25-40、新宿駅から京王線にて約10分、
下高井戸または桜上水下車、第4面に交通案内図あり)

日程：9:15 受付開始(参加費¥2,000、懇親会費¥3,000)

9:40 開会式

9:45～10:05 基調報告 奥水 優(本学会長、日本大学) 敬称略(以下同じ)

10:10～12:10 研究報告会第1部

- | | |
|-----------------------|---------------|
| ① 広東語の音訳外来語の成立と使用について | 白方直美(日本大学) |
| ② 中国語の声調教授法に対する一提案 | 野間 晃(北海道文教大学) |
| ③ 時間副詞“刚”の意味と機能 | 森 宏子(流通科学大学) |
| ④ “向”再考——動詞と介詞の分類基準 | 高橋弥守彦(大東文化大学) |

12:10～13:30 休憩(昼食、勝手ですが各自お願いします)※この間に理事会開催

13:30～14:30 研究報告会第2部

- | | |
|--------------------|---------------|
| ⑤ 日中両国教師による共同指導の試み | 劉 嘉 惠(東亜学院) |
| ⑥ ソフトアプローチの中国語教育法 | 古川典代(大阪外国語大学) |

14:40～15:20 会員総会

15:30～17:00 懇親会(文理学部構内 カフェテリア・チェリー)

※なお、会場校の日本大学文理学部では本大会の翌日にあたる3月28日(金)に、台湾師範大学との交流協定による「第二言語の習得に関するシンポジウム」開催の予定です(第4面)。

中国語教育学会第1回理事会 記録

全国中国語教育協議会から中国語教育学会に移行して初めての理事会が、昨秋11月9日(土)に学士会館本館(千代田区神田錦町3-28)で開催された。以下は当日の記録である。

報告事項(2002年10月31日現在)

- ・会員数 288名(注:本年1月31日現在で293名)。

中国語教育学会移行後、7月初めに日本中国語学会会員で本学会未入会の約1千名と中国語関係の出版社等に学会の案内を郵送し、60名を越える入会者があった。夏休みにかかったことと、入会申し込み書に紹介者の欄を設けたことから、入会を希望しながら申し込みを控えた向きがある模様。

- ・会費納入状況 今年度分完納者 170名(注:本年1月31日現在で238名)。
- ・中国語教育学会移行後、4月以降の活動状況

月例会	6月	話しことばと書きことば——会話体教科書の限界	奥水 優
	7月	中国語テキスト縦横談//併せて前回の補足	奥水 優
	9月	怎樣提高学生們的演講水平	孫 玄 齡
		第7回国際對外漢語教学シンポジウム(上海)報告	奥水 優
	10月	高校生のための中国語教科書 胡興智&小溪教材研究チーム	
	11月	第2回国際對外漢語語法教学討論会報告	郭 春 貴
	12月	公共外語的漢語教学法分析	竹中 佐英子

会報発行 第1号 6月18日 / 第2号 9月17日 / 第3号 11月2日

- ・会計監査委嘱 桑野弘美(日本大学他・非)と針谷壮一(國學院大學)の両氏に委嘱。

なお、事務局幹事は協議会から引き続き島田亜実(日本大学他・非)氏に委嘱している。

審議事項

1) 事務局体制について

事務局の現状(会長&幹事1名)は全国中国語教育協議会の時期と変わらないが、今後は例えば、事務局の持ち回り制などを考えなければ、会員の増加と活動の強化に対応できない。事務処理方法のスリム化研究と合わせて、今後の課題である。

2) 学会の財政見通しと暫定会計予算案について

当面、仮に会員300人体制で会費納入率75%の場合、年会費収入は1,125千円であり、80%の場合は120万円となる。10月末現在で納入率60%と低調であるため、11月会報発送時に再度振り込み用紙を送付し督促する。

- ・暫定会計予算案(今年度本予算は、決算書及び次年度予算案と共に次回の総会に提出する)

(収入) 会費収入	110万円
繰越金から補填	40万円
合計	150万円【注】協議会からの繰越金(会報第1号所載)の内訳

一般会計 773,244円

セミナー会計 159,542円

⇒次年度への繰越金(予備費) 532,786円

(支出) 印刷費	10万円
郵便費	30万円
事務局費(幹事手当、用品費含む)	20万円
会合費(理事会等交通費含む)	25万円
学会誌発行費	55万円
大会開催費	10万円
合計	<u>150万円</u>

⇒次年度への繰越金(予備費) 532,786円

3) 学会誌の発行について

年度内に学会誌を発行する。原稿は会報第3号で公募するが、委嘱原稿も必要である。企画ものや、書評の掲載等、学会誌としての内容について研究する必要がある。月例会の報告は会報に掲載することとしたい(注:上記原稿の投稿期限とした2003年1月15日までに8篇が寄せられ、理事数名による審査中である。なお、理事各位には「中国語教員を目指す人に読んでほしい本」というテーマで寄稿を依頼した)。

4) 今年度の年次大会開催について

2003年3月27日(木)に日本大学文理学部で開催(会報第3号に研究発表等の公募とあわせて掲載済み)。なお大会の翌日となる28日(金)に同じ会場で、日本大学文理学部と台湾師範大学の交流協定による「第二言語の習得」に関するミニ・シンポジウムが開催される(p.4参照)。

5) 月例会について

学校行事の繁忙期と休暇期間を除いて年間8回開催という現体制を維持したい。各大学の会場持ち回り運営につき協力を要請したい(注:理事各位に検討を依頼した結果、5大学から会場設営のお申し出があった)。月例会のテーマは言語教育の領域で、実践、情報、資料の方向に傾斜させる。各回2本立て、あるいは単一のテーマで討論ないしは意見交換を重視する。いわゆる出前形式の月例会(地方開催の研究会)も実現したいので、協力を要請したい。

6) 会報発行について

従来通り、年間5~6回発行を維持したい。当面、現行の手作り形式で費用ゼロも維持したい、という事務局案に対し、今後の方向としてe-mailによる会報発行等の提案があった。関連してホームページ開設の検討も今後の課題とされた。

以上

SSS 2003年度の月例会開催予告 SSS

月例会については上記の理事会記録にもあるとおり、年間8回(4、5、6、7、9、10、11、12の各月)の開催を予定しています。会場については、多年お世話になって来た勸国際文化フォーラムの会議室の借用から、段階的に各大学等に会場を移して行く方針ですが、とりあえず4月と5月は従来どおりとします。6月以降の会場提供については会員各位の所属機関にお願いする方針です。

4月の例会ご案内 ⇒会場等の準備の都合で、事前の参加お申し込みを事務局あてお願いします。

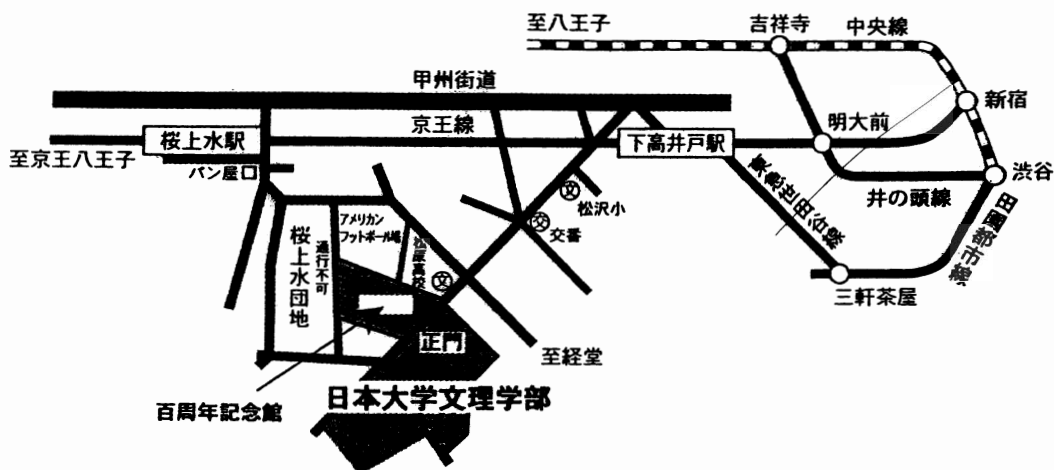
日時 4月12日(土)午後2時~4時半 人と題 奥水優:中国語科教育法について

会場 勸国際文化フォーラム(新宿駅西口、第一生命ビル26F)会議室

第1回全国大会 会場への交通案内

JR新宿駅から京王線で約10分、下高井戸(しもたかいど)下車[各停と快速のみ停車、通勤快速は通過]、または桜上水(さくらじょうすい)下車[各停、快速、急行も停車]、どちらも運賃¥150。下高井戸下車の場合、改札口を出て、進行方向左手の階段を降りたら、踏切を背にして歩きだす、左手にマクドナルド、右手に文具店を見て前方に歩きだす。約10分で左手に日本大学文理学部、右手に都立松原高校が見えてくる。その先の左手に学部正門があるが、今回の会場は道路を挟んで正門の反対側にある「百周年記念館」(講堂・体育館)2階にある国際会議場。受付は百周年記念館入り口のホール。

案内図



日本大学文理学部と国立台湾師範大学との交流協定に基づく学術報告会開催について

第1面掲載の本会第1回全国大会の翌日にあたる3月28日に下記のシンポジウムが開催されます。本会の活動とは関係ありませんが、ご案内申し上げます。

別途、本会会員には主催校よりレジュメ等を含め、詳細ご案内を郵送する予定です。

第二言語の習得に関する国際ミニ・シンポジウム

開催日時 2003年3月28日(金)午前9時半～午後4時半

会場 日本大学文理学部百周年記念館 国際会議場(参加自由)

プログラム 研究報告、実践報告、懇談会等

報告者 国立台湾師範大学教授 鄧守信、信世昌、曾金
(以上3氏は言語学、中国語教育)、
陳純音(言語学、英語教育)

日本大学文理学部教授 奥水優(中国語学、中国語教育)、
同 助教授 田中ゆかり(日本語学、日本語教育)、
同 専任講師 張麗群(日中言語対照、中国語教育)、
東京外国語大学助教授 平井和之(中国語学、中国語教育)